

和暦	西暦	佐々木東洋関連事項
天保10	1839	6月22日、佐々木震沢の長男として江戸本所四ツ目で生誕
嘉永1	1848	幡鎌又五郎に四書を学ぶ
嘉永4	1851	萩原緑野、千坂幾に入門
安政1	1854	祖父佐々木東碩、腸チフスで死去、享年69歳。震沢、東洋も腸チフスに罹患。医業振るわず貧困状態になる
安政2	1855	天野将曹に剣術を学ぶ
安政3	1856	2月 佐藤泰然、佐藤尚中の佐倉順天堂塾に入学
安政4	1857	岩佐純、佐倉順天堂塾に入学
安政5	1858	上総下総で巡回種痘をする
安政6	1859	震沢の代診をする。過労で自宅療養
万延1	1860	10月 順天堂塾に戻る。11月12日 佐藤尚中、門人6人と長崎留学に出発、12月21日、長崎到着、ポンペからオランダ医学を学ぶ
文久1	1861	12月 長崎から江戸に戻る
文久2	1862	3月 佐々木震沢の代診を勤める。佐倉順天堂塾を退学。初婚不縁。妻富士子(田口氏)を娶る
文久3	1863	1月 深川北松代町2丁目に開業。肺尖カタルに罹患。10月 家督を相続
慶応1	1865	中田政吉を養子とする(のちの佐々木政吉)。
慶応2	1866	4月 本所相生町4丁目に転居開業。松本良順の推挙で軍艦蟠龍軍医、準一等士官に就任。勝安房と会談。
明治1	1868	英学修得を開始。妻富士子(田口氏)死去。11月 三宅良斎長女ミネ子と結婚、三宅宅に転居し開業。本所は佐々木東溟に譲る
明治2	1869	北海道宗谷詰め二等醫士採用を辞退。亀沢町にて開業、その後自宅診療、一橋家医師を辞退。10月 大学東校に大得業生(技術官)として出仕
明治3	1870	自宅診療を止め、東京府大病院に出仕、少助教となる
明治4	1871	2月 戊辰戦争に軍医として従軍、亘理家(現、宮城県白石市)に滞在。大学東校中助教から大助教に昇進、兼ホフマン内科医長就任。ホフマンとの確執。「動脈解剖扁」、「解体生理図説」(英文)を翻訳。
明治5	1872	「診法要略」(打診聴診法)出版。
明治6	1873	佐藤尚中と共に大学東校辞職、博愛舎に入る。博愛舎解散後、亀沢町にて再び開業。のち蛸殻町に転居開業。大久保知事の要請で東京府病院(後の慈恵医大)副院長(岩佐純院長)に就任
明治7	1874	2月 東京府病院少助教に昇進、医長ウイリス。9月 アッシミード医師との確執から辞職、蛸殻町で再開業。10月 東京医学校に勤務。長与専斎の要請で大学東校病院長に就任
明治8	1875	佐藤尚中、喀血し東洋に診療を一任
明治9	1876	6月 神田駿河台に移転。7月 東京医学校、辞職。9月 大学東校病院長辞任、再開業、佐々木塾門弟8名。独逸医学書翻訳を開始
明治10	1877	2月 西南役勃発、松本順、石黒忠恵らと大阪臨時陸軍病院で、陸軍一等軍医正として診療。11月 西南役平定後、一等軍医正辞任。『内科提綱』(獨文)第一・二巻出版
明治11	1878	9月 勲四等、旭日小授賞下賜さる。『内科提綱』第三～六巻出版。政府、脚気病院設立、洋方医部門東洋、漢方医部門遠田澄庵担当、漢洋脚気相撲と呼ぶ
明治12	1879	脚気病院を駒込弥生町に移転
明治13	1880	脚気病院閉鎖。西紅梅町に私費にて脚気病院設立するも解消
明治15	1882	5月 東京日日新聞に開院広告掲載。6月1日、杏雲堂醫院開院(20室2階建て病舎)。東京地方衛生会員に推挙さる。仏教を志し芝青松寺北野元峰師に付く
明治17	1884	政吉、留学より帰国
明治18	1885	石黒忠恵、長与専斎、池田謙斎と共に乙酉会を興す(この年乙酉)

明治19	1886	杏雲堂醫院、施療部門を開設。東京府医師会設立、二代目会長に就任、本部幹事・神田区医師会会長兼任。内務省中央衛生会委員就任。
明治21	1888	「信仏論」を誘善社から刊行
明治22	1889	隆興を養嗣子とし引き取る
明治23	1890	従五位に叙せらる
明治24	1891	東京府医師会四代目会長に再選、日本橋坂本町に医師会事務所を新築
明治26	1893	杏雲堂醫院拡張工事開始
明治27	1894	拡張工事竣工、東洋自筆「杏雲堂醫院」看板設置（現在も残る）
明治28	1895	東京府医師会会長を辞任（獨逸医学書誤訳の責任）
明治29	1896	政吉、杏雲堂醫院長就任。平塚杏雲堂病院、設立。
明治30	1897	東洋、引退
明治32	1899	熱海に隠棲、無住と号し、別荘を無住荘と命名
明治37	1904	杏雲堂本院に甲辰会を設置
明治41	1908	古希祝宴、於政吉邸
大正1	1912	急性肺炎罹患、政吉、熱海へ往診。その後、大森山王台政吉邸へ移る
大正4	1915	急性肺炎罹患。喜寿祝宴開催
大正6	1917	佐々木杏雲堂略伝記（東洋手記）執筆
大正7	1918	5月25日、金婚式・卒寿祝宴。10月9日没、享年80歳。正五位、勲三等瑞宝章授与。13日、葬儀、青山斎場（葬儀委員長、金杉英五郎）。谷中天王寺墓地に埋葬。
大正9	1920	銅像作成、生誕日6月22日に除幕式
昭和27	1952	厚生省から、結核予防・治療における功労者として表彰